

## 実践② 鹿児島市立武小学校

### 1 はじめに

本校は、鹿児島中央駅近くに位置し、近年商業施設や住宅地の建設が進み、児童数599名、学級数24学級と児童数が増加傾向にある。校章は桜の花をベースにし、その中央に「武」の字を置いている。この「武」には、西郷南洲ゆかりの地であることと、礼に始まり礼に終わる武道の武の意味があり、礼儀正しい子どもに育てたいという願いが込められている。このような古い歴史のある学校で、地域、保護者の大きな支えのもと教育活動を推進している。

読書活動に関しては、学習コーナーの設置や社会で話題になっている題材に関する蔵書の整備により、図書館の学習センター・情報センターとしての機能の充実を図っている。また、ポップ作成や読書感想文、読書感想画への取組、校内放送における本の紹介、パネルシアター等、読書と表現を関連づけた実践が認められ、本年度、県教育委員会より「子どもの読書活動推進優良校」として表彰していただいた。

### 2 読書活動の推進

#### (1) 学習センター・情報センターとしての図書館づくり

児童の自主的・自発的で協働的な学習活動を支援し、授業の内容を豊かにするとともにその理解を深める「学習センター」としての機能や、情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能にも目を向けながら図書館利用の工夫に努めている。そこで、全学年において学級の図書館利用時間の他に、調べ学習の時間を設定し、読書活動以外に広く図書館が利用できるよう、図書館時間割を工夫した。毎日午後の図書館利用時間（5，6時間目）は調べ学習として利用することができる時間として設定している。

6年生は、「武小学校創立50周年記念写真集」や「徳の交わり」「鹿児島市の文化財」等の郷土資料を使い、それぞれのテーマに沿って調べ学習を行っている。必要な情報をもとに収集、選択、活用し、タブレットに文章や写真をまとめる活動を行なうことを通して、児童の学びを深めることができた。



1年生「じどう車ずかんづくり」



6年生「郷土資料を活用した調べ学習」

#### (2) 読書活動から表現活動への発展的な取組

11月の読書月間に合わせて、読書感想文や読書感想画を描く活動を教育課程の中にも位置付け、各学級で取組を行っている。今年度も多くの児童が西日本読書感想画展において入賞している。その他にも校内で学級2点の特選、1点の入選を表彰

し、作品掲示を行って、読書意欲を高めている。

これまでも読んだ本を生かしてポップ作りに取り組む学級もあったが、コロナ禍における読書活動の工夫として全校で全国学校図書館協議会主催の「絵本ポップ交流」に取り組んだ。児童は、寄贈された7冊を含む30冊の本を読み、心に残る場面を思い出しながら、楽しくポップを作成した。

また、コロナ禍における読書活動の工夫の一つとして、図書委員会によるパネルシアターの録画、放送も挙げられる。集会活動が制限された中でも、録画、放送によるパネルシアターや絵本の読み聞かせは、児童に読書の楽しさを味わわせる有効な手段であり、読書と表現を関連させた活動を行うことにもつながった。



絵本のポップ作り



図書委員会によるパネルシアター

### (3) 家庭との連携（子どもといっしょに読書の日とPTA活動としての読み聞かせ）

県が制定している毎月23日「子どもといっしょに読書の日」に合わせて、本校でも毎月23日を親子読書の日として読書カードを作成し、読書活動を推進している。

また、PTA活動の一環として年4回、朝8時25分から8時40分までの15分間、保護者による読み聞かせを行っている。自宅にある本、学校の絵本や紙芝居、大型絵本等を準備し、朝の静かな時間に読み聞かせをして、楽しいひと時を過ごしている。児童も顔見知りの保護者の方々の読み聞かせとあって毎回楽しみにしている。

月/日 (曜日)	本の名称	方法 (読書)	子どもの感想 保護者の感想	担任印
4/23 (土)	おちこぐらし こがはらついで	②	おちこのわががあらにぶら うがまたとまもいませして いこりにして、とまもいませ すめ等どあつたよめに	
5/13 (水)	いぬの ロケット お話をま	②	いぬがまきまましたまこい ぬーこきいせん。 ちかひいぬいすてあつた とく読みたい。	

「子どもといっしょに読書の日」読書カード



保護者による読み聞かせの様子

## 3 おわりに

年間の目標貸出冊数を設定し、読書活動を行っているが、ほとんどの児童が目標を達成している。職員、保護者、地域が連携しながら、これからも円滑な図書館運営や読書環境の整備、学習センター・情報センターとしての図書館の利活用に努め、児童の読書意欲の向上につなげていきたい。